| 学校番号 | 3019 |
|---|---|

# 令和８年度　福祉科

| 教科 | 福祉 | 科目 | こころとからだの理解 | 単位数 | ２単位 | 年次 | ２年次 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 使用教科書 | 「こころとからだの理解」（実教出版） | | | | | | |
| 副教材等 | 「介護職員初任者研修テキスト」（ＱＯＬサービス）<br>「見て覚える!介護福祉士国試ナビ」（中央法規） | | | | | | |

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

介護を実践する際に必要な「こころとからだのしくみ」について勉強をしていきます。２年生では、特に認知症の医学的知識について学び、認知症の方の心理・行動面について理解を深め、ケアのあり方を考えることで介護福祉士として必要な専門性を身に付けます。

①人間の「こころのしくみ」や「からだのしくみ」に興味や関心を持って授業に取り組み、グループワークや発表など、積極的に参加しましょう。

②２年福祉科目の授業のなかで介護職員初任者研修課程を実施し、資格取得をめざします。

③国家資格である介護福祉士の受験資格を取得するために必要な科目です。

2　学習の到達目標

福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、介護を実践するための人間の理解に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目標とします。

【知識および技術】

自立生活の支援に必要なこころとからだについて体系的・系統的に知識を理解するとともに、関連する技術を身に付けます。

【思考力、判断力、表現力等】

自立生活の支援に必要なこころとからだに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養います。

【学びに向かう力、人間性等】

健全で持続的な社会の構築をめざして自ら学び、こころとからだに基づいた自立生活の支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を養います。

3　評価の観点及びその趣旨

| 観点 | a:知識・技術 | b:思考・判断・表現 | c:主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| 観点の趣旨 | 自立生活の支援に必要なこころとからだについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 | 自立生活の支援に必要なこころとからだに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。 | 健全で持続的な社会の構築をめざして自ら学び、こころとからだに基づいた自立生活の支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。 |

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

| 学期 | 単元名 | 学習内容 | 単元(題材)の評価規準 | 評価方法 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 知(a) | 思(b) | 主(c) |
| 1学期 | 介護職員初任者研修課程 | 【介護職員初任者研修課程】<br>9 こころとからだのしくみと生活支援技術<br>ア 基本知識の学習<br>②介護に関するこころのしくみの基礎的理解<br>イ 生活支援技術の講義・演習<br>⑧食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護<br>⑩排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | a:食事や排泄介助に関する利用者の方の尊厳を保持した自立支援の方法、潜在的能力を引き出す支援を行うために必要な基本的知識を理解している。<br>b:利用者の方の尊厳を保持した食事や排泄介助における自立支援方法について、利用者の方の状態や状況に応じた根拠に基づいた支援内容を考察し、表現することができる。<br>c:介護を必要とする人の気持ちに寄り添った安全・安楽な食事や排泄介助について、主体的に活用できる。 | 定期考査<br>確認ﾃｽﾄ | 定期考査<br>ﾜｰｸｼｰﾄ | ﾜｰｸｼｰﾄ<br>観察<br>提出ﾉｰﾄ |
| 2学期 | 第4編 認知症の理解 | 第2章 認知症の基礎的理解<br>1 認知症による症状<br>2 認知症の診断<br>3 認知症の主な病気の特徴<br>4 若年性認知症<br>5 認知症の薬物療法 | a:認知症の行動・心理症状（ＢＰＳＤ）について理解している。<br>b:認知症を理解するために思考を深め判断し、特徴的な行動障がいと心理的要因について適切に表現することができる。<br>c:認知症について関心をもち、共感的な理解のもと、認知症の方に対するよりよい支援方法について、主体的に活用できる態度を身に付けている。 | 定期考査<br>確認ﾃｽﾄ | 定期考査<br>ﾜｰｸｼｰﾄ | ﾜｰｸｼｰﾄ<br>観察<br>提出ﾉｰﾄ |
| | | 第3章 認知症に伴う心身の変化と日常<br>1 認知症の人の特徴的な行動・心理<br>2 認知症に伴う機能の変化と日常生活への影響 | a:認知症の行動・心理症状（ＢＰＳＤ）について理解している。<br>b:認知症を理解するために思考を深め判断し、特徴的な行動障がいと心理的要因について適切に表現している。<br>c:認知症について関心をもち、共感的な理解のもと、認知症の方に対するよりよい支援方法について、主体的に活用できる態度を身に付けている。 | 定期考査<br>確認ﾃｽﾄ | 定期考査<br>ﾜｰｸｼｰﾄ | ﾜｰｸｼｰﾄ<br>観察<br>提出ﾉｰﾄ |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 第4章　認知症と地域サポート<br>1　地域におけるサポート体制<br>2　家族への支援 | a:地域におけるサポート体制について理解している。<br>b:認知症高齢者の家族の気持ちを理解するために思考を深め判断し、心理的な変化について適切に表現している。<br>c:認知症高齢者の家族の気持ちについて関心をもち、共感的な理解のもと、家族に対するよりよい支援方法について、主体的に活用できる態度を身に付けている。 | 定期考査<br>確認ﾃｽﾄ | 定期考査<br>ﾜｰｸｼｰﾄ | ﾜｰｸｼｰﾄ<br>観察<br>提出ﾉｰﾄ |
| | | 第1章　認知症をとりまく環境<br>1　認知症介護の歴史と理念<br>2　認知症高齢者の現状と今後<br>3　認知症に関する行政の方針と施策 | a:パーソンセンタードケアについて理解している。<br>b:認知症介護の今後の在り方に思考を深め判断し、行政の施策と地域住民の関わり方について適切に表現している。<br>c:認知症の歴史に関心をもち、超高齢社会を迎えた認知症介護の在り方について主体的に活用できる態度を身に付けている。 | 定期考査<br>確認ﾃｽﾄ | 定期考査<br>ﾜｰｸｼｰﾄ | ﾜｰｸｼｰﾄ<br>観察<br>提出ﾉｰﾄ |
| 3学期 | 第2編　生活支援に必要なこころとからだのしくみの理解 | 第2編　生活支援に関する必要なこころとからだの仕組みの理解<br>第1章　生活動作に関するこころとからだのしくみ<br>6　睡眠に関するこころとからだのしくみ | a:睡眠の意義としくみ、睡眠障がいの種類と症状および対応方法について理解し、加齢に伴う睡眠の変化について資料や情報を収集し適切に活用している。<br>b:加齢に伴う睡眠の変化について思考を深め、良眠をもたらす支援方法を適切に表現している。<br>c:睡眠について関心をもち、良眠をもたらす支援方法について主体的に活用できる態度を身に付けている。 | 定期考査<br>確認ﾃｽﾄ | 定期考査<br>ﾜｰｸｼｰﾄ | ﾜｰｸｼｰﾄ<br>観察<br>提出ﾉｰﾄ |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 第3編　人間の成長と発達の基本的理解 | 第3編　人間の成長と発達の基礎的理解<br>第1章　発達とは<br>1　発達と老化の理解<br>2　人間の発達と発達課題 | a:人間の発達段階と発達課題について理解している。人間の発達段階に関する様々な資料や情報を収集し、適切に活用している。<br>b:人間の発達段階に思考を深め判断し、その発達課題について適切に表現している。<br>c:人間の発達と老化について関心をもち、自らの成長を振り返って主体的に活用できる態度を身に付けている。 | 定期考査<br><br>確認ﾃｽﾄ | 定期考査<br><br>ﾜｰｸｼｰﾄ | ﾜｰｸｼｰﾄ<br><br>観察<br><br>提出ﾉｰﾄ |

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度